

開催年月日 平成30年9月4日（火）  
 質問者 日本共産党 佐野 弘美 委員  
 答弁者 保健福祉部長 佐藤 敏  
 健康安全局長 竹縄 維章  
 地域保健課医療参事 新里 勝宏

質問内容	答弁内容
<p>一 平成29年度歯・口腔の健康づくりに係る施策の推進状況について</p> <p>(一) むし歯の予防について</p> <p>むし歯の予防の重点施策に「保育所・小学校等におけるフッ化物洗口の推進」とありますが、むし歯予防には正しい歯磨き習慣や技術、おやつをダラダラ食べないなどの生活習慣、定期的な歯科チェックと歯科指導などがメインであるはずで、フッ化物洗口による歯質強化を目指すのはその後ではないかと考えます。重点施策であるフッ化物洗口と、その他の取組の位置づけについて、まず伺います。</p> <p>(二) むし歯予防推進の具体策について</p> <p>御答弁のとおり、乳幼児期からの取組が重要です。具体的には乳幼児健診でのチェックや指導を通して、保護者が正しい知識を持って、適切なケアを行えるように支援することが求められます。全ての市町村で適切に行われるよう、道は支援する役割があると考えますが、どう取り組んでいるのか伺います。</p> <p>【指摘】</p> <p>全ての市町村で、乳幼児健診時に保健指導が行われている、情報提供や研修に取り組んでいるとのことですが、こうした取組こそが、まず重点施策に入るべきではないでしょうか。ここがきちんとされていないから、むし歯の平均本数が依然として多い、口腔崩壊状態にある子どもが放置されているということになっていないかと考えます。健診で、要指導、要治療となって指導した子どもが、その後どうなったかフォローする。問題があれば、ほかの支援にも繋げる。そのほか、地域での健康教育や定期歯科健診の普及などの事業を推進する。こうした分野で目標を設定し、進捗状況を評価するべきと指摘をします。</p> <p>(三) トラブル時の対応について</p> <p>フッ化物洗口については、様々な団体が反対意見を出しており、子どもの成長・発達・健康への影響が指摘されています。私も健康被害の訴えについて伺ったことがあり、各地で何らかのトラブルが生じているのではないかと考えますが、集団洗口の際にトラブルが生じた場合の対処について、市町村や都道府県への情報提供、分析等について、道としてとり決めはあるのでしょうか伺います。</p>	<p>【地域保健課医療参事】</p> <p>むし歯の予防についてでございますが、むし歯は特に歯が生えた直後から数年間のうちに発生しやすいため、乳幼児期からの取組が重要であると認識しております。このため道といたしましては、歯科保健医療推進計画において、乳幼児及び児童生徒が定期的な歯科健診やブラッシングなどの保健指導を利用できる機会の確保とともに、保育所・小学校等におけるフッ化物洗口の推進をはじめ、幼児期におけるフッ化物塗布、フッ化物配合歯磨剤の使用によるフッ化物利用の普及などをむし歯予防のための主な施策として位置づけているところでございます。</p> <p>【地域保健課医療参事】</p> <p>市町村に対する支援についてでございますが、道では毎年、「市町村歯科保健対策実施状況調査」を実施し、乳幼児期における歯科保健対策の実施状況を把握しておりまして、全ての市町村において、乳幼児歯科健診時に歯・口腔の健康に関する保健指導が行われているところでございます。また、各市町村に対して、道立保健所を通じ、取組状況や歯科保健指導等に関する情報提供を行いますほか、歯科保健事業に従事する歯科衛生士、保健師等に対し、資質向上のための研修も行っているところでございます。</p> <p>【地域保健課医療参事】</p> <p>フッ化物洗口の適切な実施についてでございますが、フッ化物洗口につきましては、WHO（世界保健機関）や厚生労働省等、国内外の専門機関・専門団体が、その有効性と安全性を一致して認めているところでございます。こうしたことから、道ではこれまで、適切なフッ化物洗口の実施のため、道歯科医師会等の専門家の助言を得て実践的なガイドブックを作成し、市町村や教育委員会を通じて、保育所、</p>

質 問 内 容	答 弁 内 容
<p>国や専門機関が安全だと認めていることが前提で進められていることは承知していますが、その一方で、危険性や無効だとの指摘や日本弁護士連合会をはじめ様々な団体等が反対の声をあげています。体質に合わない人も少なからずいると思います。ただ安全だと進めるのではなくて、様々な見解、リスクもあるということを踏まえて対応していただきたいと思っています。</p> <p><b>（四）口腔崩壊の認識について</b></p> <p>12歳の1人当たりの平均むし歯数は減少していますが、その一方で、10本以上のむし歯があるなど、咀嚼が困難とみられるいわゆる「口腔崩壊」の子どもが各地で問題となっています。東京都足立区が2015年、区立小学校の1年生を対象に行った調査では、生活困難世帯の子どもはそうでない世帯の子どもと比べて、5本以上のむし歯がある割合が2倍に上る、との結果が明らかにされました。各地で「口腔崩壊」に関する調査が行われ、貧困との関連が指摘されています。本道においても「子どもの生活実態調査」から明らかになった深刻な状況を考えると、こうした結果は無視できないはずです。道はこうした「口腔崩壊」についてどう認識し、対応しているのでしょうか伺います。</p> <p>むし歯と未治療の歯の平均本数が明らかに多い、非常に深刻ですが、これだけでは「口腔崩壊」状態にある子どもの深刻な状況は全く見えてこないと思います。</p> <p><b>（五）口腔崩壊への今後の対応について</b></p> <p>沖縄タイムスの調査では、経済的貧困や親のダブルワークなどで余裕がない、親の意識や生活習慣の連鎖などが指摘されています。東京歯科保険医協会の調査では、医療費窓口負担のない自治体と、定額負担が必要な自治体を比較し、窓口負担がある自治体では、口腔崩壊の子どもがいた小学校は50パーセント、負担のない自治体より約20ポイント多い結果だったとしており、医療費負担との関係も示唆されています。子どもの貧困が深刻で、むし歯の本数も全国より多い本道では、こうした口腔崩壊の問題は看過できません。口腔崩壊の実態を学校や歯科医師会等と連携して把握し、必要な支援を検討する必要があると考えますが、いかがか伺います。</p> <p><b>【指摘】</b></p> <p>むし歯が放置されて深刻になってしまってからでは、痛くて治療にも行かない、お金や通院の負担を嫌い、治療を諦めて放置する、そうなれば、生涯の</p>	<p>小学校等に配付しますとともに、教職員等の関係者に対する説明会や実技研修を開催しております。また、保育所等におけるフッ化物洗口の実施時に手順を誤った事例などを把握した場合には、健康上の問題が発生していないことを確認した上で、手順の誤りの原因を分析し、再発防止等の対応について専門的助言を行ってきたところでございます。</p> <p><b>【地域保健課医療参事】</b></p> <p>子どものむし歯についてでございますが、国の平成27年度乳幼児栄養調査結果では、経済的な暮らし向きが「ゆとりなし」と回答した保護者の子どもは、菓子などの摂取頻度が高い傾向にあり、むし歯が多いとの報告がなされております。また、平成29年度の学校保健統計によりますと、道内の12歳の1人平均むし歯本数は、全国平均0.82本に対し、1.5本であり、このうち、治療をしていない歯は0.7本と全国平均の0.3本の2.3倍となっております。道といたしましては、本道の児童のむし歯の状況は、改善すべき課題と考えており、こうした調査結果を参考としながら、効果的な施策の推進に取り組んでいるところでございます。</p> <p><b>【健康安全局長】</b></p> <p>多数のむし歯がある子どもへの対応についてであります。多数のむし歯があると、十分に噛むことができないために偏食や食欲不振により栄養摂取に影響があることが、専門学会により指摘されているところでございます。むし歯の放置は、子どもの健やかな成長や発達への影響はもとより、ネグレクトなど、家庭の子育てに問題がある場合もあり、育児や生活面も含めた支援が重要と考えております。</p> <p>道では、定期的な歯科健診を通じ、子どもたちのむし歯の状況を把握するとともに、必要に応じ保健指導などの支援が受けられるよう、市町村や道教委、歯科医師会等との連携のもと、乳幼児期及び学齢期における歯・口腔の健康づくりに努めてまいります。</p>

質 問 内 容	答 弁 内 容
<p>健康や社会生活にも影響します。しかも、ネグレクトなど特別な支援が必要な特別な家庭だけではなく、普通に働いて子育ても頑張っているような家庭で普通に起こり得る事です。だからこそ、実態を把握し、歯科健診や指導の支援を強めることが求められるのであって、フッ素洗口のような安上がりで一斉に行える対策ではないということを指摘します。</p> <p><b>(六) 今後の取組について</b> むし歯を減らす目標を掲げながら、重点施策がフッ化物洗口の推進では達成できるとは考えられません。子どもの頃からの適切なケアによって、むし歯を予防することは、健やかな成長を促し、人生の土台をつくる上で重要です。今後どう取り組むお考えか伺います。</p> <p><b>【指摘】</b> ただいま、部長から、歯の健康は重要、定期的な歯科健診・歯科指導の確保についてお答えいただきました。依然としてむし歯の状況が深刻な本道において、むし歯を防ぐ正しいブラッシングや生活習慣の指導、普及にもっと力を入れるべきです。現在実施中の計画には、主な施策に「定期的に歯科健診・保健指導を利用できる機会の確保」とあります。これを具体化して強めて、全ての子どもと保護者に必要な支援が行き届く体制づくりにこそ力を入れるべきだと指摘をして質問を終わります。</p>	<p><b>【保健福祉部長】</b> 今後の取組についてでございますが、歯と口腔の健康は、生涯にわたり健康で質の高い生活を営む上で重要な役割を果たしていると認識をいたしております。このため、道といたしましては、8020推進条例や歯科保健医療推進計画に基づきまして、むし歯が原因で歯を失うリスクを低下させるため、引き続き、むし歯予防効果の高いフッ化物洗口の普及に努めますとともに、定期的な歯科健診や保健指導の機会の確保、家庭における適切なフッ化物配合歯磨剤を使用した歯磨きの実践など、市町村や歯科医師会等の関係団体との連携により、歯と口腔の健康づくりに取り組む考えでございます。</p>

